

OPINION 添乗員の使命とは

私の旅の始まり

私が大学に入学したのは1964年、ちょうど東京オリンピックが開催された年で、東海道新幹線や首都高速道路の開通等により交通に関する考え方が変わり始めた頃でした。しかしそれは陸上に限ったことで、空の上、つまり飛行機に乗るといことになると話は別で、まだまだ通常の交通手段ではおぼろげなものでした。

私が初めてエジプトに行こうと考えたのは、こうした時期でした。日本からエジプトへは船で行くしかないと考えていた仲間たちに私は「空があるじゃないか。飛行機に乗ってこよう!」と提案しました。そのため、試しに国内線で、当時一番運賃が安かった羽田 伊丹の深夜便に乗ってみました!先しました。私の夢のひとつだった「飛行機に乗ること」がそれで叶いましたから、余計に、エジプトへも飛行機で行きたかったわけです。

その頃は日本航空に羽田からカイロを経由してヨーロッパに行く便がありました。エコノミークラスでさえ運賃が40万円以上しました(現在でおそらく200万円くらいの価値でしょう)。ですから、指導の先生を入れて合計6人分の費用はとてつくれず、飛行機で行くことは諦めざるを得ませんでした。その後、試行錯誤の末にタクシーにただで乗せてもらえることになり、先生だけはそれではまずいので日本航空で行っていただきました。それから今まで120か国ほど訪れましたが、やはり初めてエジプトの地に立った時の感動は、今でも忘れることができません。

添乗員の使命

私が学生だった頃の子供時代の憧れの職業は、スチュワーデス



ツアーコンダクター・オブ・ザ・イヤー選考委員会の皆様

(今ではキャビン・アテンダントと呼びますが)と添乗員でした。どちらもただで飛行機に乗れたり外国旅行ができるといったことが理由だったようです。しかし時は巡り、現在では憧れ

の職業としてキャビン・アテンダントや添乗員は挙がらないと聞いて驚きました。

それは、エジプト留学中に現地の観光ガイドのアルバイトをしており、一緒に仕事をした添乗員に感心させられることが多くあったからです。今でこそエジプトの観光事情は良くなっていますが、当時は、予約はしてあるのにホテルの部屋がない、バスが時間通り来ない、入場できない遺跡がある等トラブル続きで、走り回って迅速に対応していく添乗員の姿を見て尊敬の念を覚えました。ですから、彼らに文句を言う客にはいつも「お金を払ったからといって、添乗員はあなたの奴隷ではありません。私たちはエジプトではみな同じ『日本人』なのですよ」と言ってたしなめました。ともかく、お金を払ったからといって威張り散らす客が一番嫌でした。

エジプト人を貧乏人扱いする客もいました。「街中をブラブラしている人が多すぎるが、きっと働いていないのだろう。あんな巨大なピラミッドを造った民族の成れの果てが、どうしてこんなになってしまったのか」と言うのです。しかし日本だってつい少し前まで似たようなもので、戦後のヤミ市をおなかを空かせて泣きながら歩いたのを私は覚えています。そういう人たちには、「少しばかりお金を手に入れたからと言って威張るのは間違いです。彼らがなぜ働いていないのかあなたは知っているのですか」と言いました。当時、エジプトで働いていない人が多かったのは、その頃エジプトには職がないという事情があったからです。観光地巡りや買い物だけでなく、その国の事情や人々を知ること、旅の大切な要素だと私は思うのです。

ツアーにおいて旅行客が何を感じ学ぶか。それは本人だけでなく、添乗員や現地ガイドによるところも大きいと思います。添乗員の対応や言葉次第で、訪れた国の印象が変わることもあるでしょう。添乗員がそのような認識の上に立ち責任感を持って業務を行うこと、それが添乗サービスの向上に繋がると私は思います。



ツアーコンダクター・オブ・ザ・イヤー選考委員会委員長
サイバー大学学長・エジプト考古学者

吉村 作治氏

CONTENTS

OPINION ————— 1

添乗員の使命とは

ツアーコンダクター・オブ・ザ・イヤー選考委員会委員長
サイバー大学学長・エジプト考古学者 吉村 作治氏

特集 ————— 2

添乗労働時間の取扱に共通のルールを!!

専門家による“勉強会開催”が急務

“ツアーコンダクター・オブ・ザ・イヤー2008”受賞者決定!!

TOP INTERVIEW ————— 4

近畿日本ツーリスト株式会社 代表取締役社長

吉川 勝久氏をお訪ねして

TCSA REPORT ————— 6

「TCSA運営幹事会」新設、今後の協会事業運営に新風を

「ツアーコンダクターになろう!!(添乗業務基礎研修)」

- TCSA主催Eラーニングによる講座がスタート -

TCSA REPORT ————— 7

TCSA主催「旅程管理研修」WEBによる申込受付順調に滑り出し!!
2000日添乗員のコソコソ奮闘記 ㊦

TCSAだより ————— 8

“ツアーコンダクター職業フェア2008”成功裡に終了

「平成20年度添乗業務レベルアップ研修」概要決定

TCSA・JATA共催で東京・大阪にて実施
会員動向 編集後記

特集!

添乗労働時間の取扱に共通のルールを!! 専門家による“勉強会開催”が急務

「提言」

2008年3月に開催されたTCSA通常総会では、添乗を専門職とする人たちの労働環境改善のために、「国内日帰り旅行」と「大会行事・イベント業務」については派遣先旅行会社による時間管理に基づいた派遣料を求めていくことを確認しました。また、同時に首都圏においては、派遣スタッフに1時間あたり1,000円を下回らない賃金を支給することを申し合わせました。

業務を遂行するために法定研修を受け、公的資格を取得しなければならない専門職であるにも拘らず、ファーストフードのアルバイト以下の時間給では優秀な人材が集まる道理もありません。旅行会社が求める高いホスピタリティー・マインドや高度なクオリティーを望むことに無理が生じます。さらに、昨今の世相の動きから、雇用保険、社会保険を付保している人を派遣するよとの派遣先からの要請もあり、このリーガルコストも派遣料で賄わなければなりません。

一部の旅行会社は、期の途中でコスト増につながる対応は難しいとの理由で時間管理を先延ばしにしたり、処遇の改善には全くつながらない時間単価を提示してきています。

シーズン、曜日並びなどによって波がある旅行需要に合わせて人材を適確に派遣することが求められる一方、マーケットの冷え込みや派遣先の一方的な事情によって人材の大量解雇を余儀なくされるリスクを常に抱えているTCSA会員会社は、目下大変苦慮しています。

本来、労働力の調整弁的使用の仕方をすべきでないという“派遣”の精神が無視され、“直接雇用をせずしていつでも切れる労働力”として派遣労働を捉えている企業が多く、この使用者側の身勝手な今回の派遣労働の規制強化をもたらしたものでしょう。

昨今の傾向として、就労について疑問が生じると即、労働局や労基署に相談に行く派遣スタッフが増えています。ナイトフライトでヨーロッパ添乗に出かけた時の深夜労働の割増賃金の相談を派遣先や労基署に持ちかけるなど、以前には見られなかったことです。ただ、その相談をTCSAや会員会社にされたにしても、誰も正解を持ち合わせていません。働く側の意識が変わってきているのに、業界内に統一されたルールや考え方がありません。

“添乗中の労働時間”は旧くて新しい問題であり、TCSAでは平成元年に当時の労働省労働基準局監督課長の推薦により「労働関係研究センター」の専門家や三浦雅生弁護士にも参画いただいて勉強会を実施。労働関係研究センターが取りまとめた報告書は労働基準局監督課にも提出されました。

その勉強会の考え方がベースとなって行政も添乗労働を“みなし労働”として取り扱ってきましたが、20年前は海外添乗が主流であり国内日帰り添乗については全く議論していません。

20年の間に添乗実態や業務内容も大きく変わり、また、行政の取り扱いも変わってきている中、合法的な在り方を研究する必要があります。大手旅行会社の社員添乗傾向が復活しつつある今日、旅行業界とともに専門家による勉強会を開催することが急務と考えます。それによって行政上の取り扱いが明確になれば、TCSAも自信を持って相談に応じ、派遣先旅行会社もTCSA会員会社も適法な運用が為されるようになると期待します。

Tour Conductor of the Year 2008

前年度に大きな功績を残したツアーコンダクターを称える表彰制度として一昨年スタートしました「ツアーコンダクター・オブ・ザ・イヤー」。本年度第3回を迎え、8月に開催された最終選考委員会で、吉村治選考委員長をはじめ全委員出席の下、晴れの受賞者を選考いたしました。表彰は9月19日お台場ビッグサイトで開催のJATA世界旅行博会場メインステージにおいて行なわれ、関係者の祝福と当日入場者からの暖かい拍手を受け、喜び一杯の表彰式でした。

Tour Conductor of the Year 2008 第3回受賞者



瀬口 つぐみさん
((株)ジャッツ関西所属)

2007年9月、ミャンマーで軍事政権に反抗した僧侶たちのデモが暴動となり、日本人カメラマンが射殺されたことが日本でも報道されたが、折り返し、ミャンマー添乗中だった瀬口さんはお客さまが不安に陥らないよう沈着冷静に行動した。関係機関と緊密な連携を取り、混乱のヤンゴンを避けて、このツアーの主目的であったバゴダ修復者の記念プレートへの記名確認と小学校への文具寄付を無事に果たした。21時以降、朝6時迄の外出禁止令が出され、現地駐在員の一時帰国が始まる状況の中での現地小学生との交流は、感涙の中で行われ、ツアー参加者全員が感動と満足で旅を終えた。このツアーは、関西民放が毎年行っており、瀬口さんは7年間指名を受けている。添乗歴18年、通算添乗日数2,000日を超え、年間アンケート集計もほぼ満点でトップクラスのプロ中のプロである。



磯部 正春さん
((株)JTBワールドパッケージング所属)

2007年8月から9月にかけて観光地として未整備な点が多々あるクワアチアへの本邦初のチャーター便が4本設定された。磯部さんは現地に先乗りをし、合計1,360名のお客さま全体を掌握してスムーズなオペレーション可能な体制を構築、かつ今後の対応への改善提言を行なっていることが、今後の日本発チャーター便促進に多大な貢献をしたとして評価された。
添乗歴31年、通算6,000日を超える添乗のTCSA特別永年勤続功労表彰者であり、かつ平成19年度観光従事者功労関東運輸局長表彰も受賞している評判の高いベテランツアーコンダクターである。所属ツアーコンダクターの長として信頼厚く後輩育成に教官として努めている。



平井 雄一さん
((株)ツアーリストエキスパート所属)

2007年7月北海道ツアー添乗中に大型台風に遭遇、復路の北斗星の運休が判明した。振替手段を急遽決めるにあたり、飛行機が苦手な延泊しても鉄道で帰りたい方、どうしても当初旅程どおりに戻らねばならない方、等個々のお客さまの意向に沿った手配を行い、離回する方々へも誠実に対応をした。代替手配による個人負担が生じたにも拘らず「災い転じて福と為す」を実践し、きめ細かな対応で参加客全員から賞賛と満足を得た。添乗経験14年のベテランだが若々しさを保ち、「平井ワールド」に迷い込ませてしまう独特の雰囲気と魅力を有するイケメンツアーコンダクター。アンケートの評価は社内でもトップクラス。スーパーバイザーの社内認定を持ち、添乗業務全般の改善に大きく貢献している。

近畿日本ツーリスト株式会社

代表取締役社長 吉川 勝久氏

業界紙をはじめ、テレビ番組や日経「交遊抄」などに登場され、メディアでも注目されている近畿日本ツーリスト株式会社(以下KNT)の吉川勝久社長をお訪ねいたしました。



三橋専務理事(以下三橋) 日曜日の朝はいつもNHKの「経済羅針盤」を楽しみにしておりますが、先日は画面に吉川社長のお顔が映り、慌ててメモを持ってテレビに釘付けとなりました。

その中で、「旅行市場はまだまだ開拓の余地が有り伸びる可能性大」とおっしゃっておられたのがとても印象に残っております。

まずその辺りのお話を...

切り口次第で

まだまだ伸びる可能性を秘めた旅行市場

吉川社長(以下吉川) NHK「経済羅針盤」では生放送ということもあり、少しばかり個人的な思いを話したところもありますが、個人で手配する旅行では経験することが難しい「体験型商品」を各地域の方々と共に開発することにより、マーケットはさらに拡大していくものと考えています。私は鉄道会社の出身であることから、鉄道マニアが喜びそうな「過疎地のローカル線」に乗車する旅行や「廃線跡」を訪ねる旅をはじめ、新

潟の豪雪地帯の農家に宿泊しての雪下ろし体験など、地域に密着した商品を目下開発中です。これらの「体験型商品」は主にKNTグループ会社の(株)ティー・ゲートでたちあげているウェブサイト「旅の発見」で紹介しています。

また、2009年7月22日に起こる皆既日食を一番長く見ることができる鹿児島県の悪石島で体験する商品の開発では、宿泊場所や水、電力などの確保の課題について現地の住民と話し合いを重ね、新たに水道タンクの設置を計画するなど、早い段階から地域と一体となった取り組みを行っています。

このように旅行会社が新しい切り口で商品開発を行う一方、個人で質の高い旅行を行うためには相当な準備が必要で、見るべき価値の高いところを見逃すことやそれに辿りつかないことなど、時間と費用を無駄にすることがあります。高付加価値の旅行を行うには質の高いツアーディレクター(以下TD)の果たす役割は重要であり、旅行業界にとってTDがマーケットの拡大を図る上で大きな鍵となると考えています。

三橋 いくつになっても「未知の体験」への興味はつきませんね。ところで社長はご着任前に海外拠点を精力的に回られたそうですが...

吉川 ええ、実は今年の年初の段階で、内々に社長就任が決まっておりました。着任後は多忙を極めることが予想されたので、まず海外の拠点を可能な限り訪問することにしました。

各拠点で現状や課題について話しを聞くことができ、非常に良かったと思っています。

三橋 海外へはよくお出かけになるのですか。

心・頭・身体を

フルに使って人間を磨く

吉川 ええ、1975年から1978年まで家族を伴い、近畿日本鉄道の子会社である「アメリカ近鉄興業」のマネージャーとしてサンフランシスコに駐在していました。デベロッパーとして日本を紹介する大きなショッピングモールを展開し、日本国総領事館やJNTO、JETRO、日系の企業や物産店などに入居してもらいました。サンフランシスコ桜まつりの委員としても活動しました。1975年のアメリカ公式訪問で昭和



天皇がサンフランシスコに来られた時にはショッピングモール周辺の警備を担当し、その時FBIや警察がショットガンを構えて警備する凄さに驚きました。

当時はスタンフォード大学やインダストリアルパーク(現シリコンバレー)の視察で役所の方や大学の先生が再々訪れました。その方々をパークレーやサンフランシスコの有名な観光ルートである49マイル・シーニック・ロード等へご案内し、ガイドや添乗業務に近いことを行っていました。

その後、1984年頃から毎年、近畿日本鉄道社長秘書として海外出張に随行しましたが、同行するTDの方々の厳しい仕事を間近に見てきました。TDの朝は早くから夜は遅くまで翌日の準備をしている姿をロビーで見て「大変な仕事だなあ」とつくづく思っていました。

トロント出張の時には、社長が体調を崩し、会議に出席するのがやっとという状態の場面がありました。その際、社長が食事できないことを知ったTDが機転を利かせ、「これなら召し上がれるのではないか」とおにぎりや味噌汁を部屋に届けてくれました。社長は大層喜ばれ、私もほっとしたことを覚えています。その後、社長が団長となるツアーには、そのTDが指名されるようになりました。TDはまさに気配りの仕事ですね。添乗という仕事は経験を重ねることで、スキルを磨くと共に人間をも磨く仕事と思います。

近頃、KNTでは(株)ツーリストエキスパーツをはじめとするTD派遣各社の専門TDに添乗を依頼していますが、人間教育の一環としてKNTの社員教育のカリキュラムにも添乗業務を組み入れています。旅行業に必要な感受性を高める上でも「心と頭と身体」をフルに使う添乗業務は最適です。これは私の信条ですが、心・頭・身体を使えば使うほどに精度も上り、想像力も豊かになり、人間力も上がり、さらに周囲の人にも喜ばれます。

三橋 これは添乗を専門職にする人たち、皆への吉川社長からのメッセージとしてお伝えします。

お仕事柄、国内・海外を問わず多くのご旅行をされたと思いますが、中でも感動された旅についてお聞かせいただけますか。

カナディアンロッキーの景観に感動の旅

吉川 国内旅行も海外旅行ももちろんそれぞれに良さはあ



るのですが、その中でもカナダには数回訪れていて、思い出深い旅が多いですね。特にアメリカ駐在中に、家族と一緒にサンフランシスコからバンクーバー、バンフ、ソルトレイク、グ



ランドキャニオン、ラスベガス、ロサンゼルスを経由してサンフランシスコに戻るという約8,000kmのルートを、車で15日間かけて食料を持参して回った旅が一番印象に残っています。その時、初めて見たカナディアンロッキーの景観に大きな感動を覚えました。

その後カナダには何度も会議やバンクーバーの交通博などで訪れていて、バンクーバーからロッキー山脈のジャスパーに、あるいはモントリオールからケベックに行った列車の旅も良い思い出として残っています。

カナダは訪れるたびに新しい発見があり、感動することの多いディスティネーションです。

三橋 車で長距離の旅や列車の旅など非常に貴重なご経験をされているんですね。

私どもTCSAはKNTの皆様へ創設以来大変お世話になっております。最後に協会へのご要望をぜひともお聞かせいただければと思います。

吉川 まず1点目として、TSCAの会員に対して指導力を発揮してもらうことを期待します。インハウス系と独立系の派遣会社では多少スタンスの違いがあると思いますが、同一業界として足並みをそろえることが必要と思います。

次に、観光庁が発足したことから、観光庁からTD派遣業へサポートが得られる活動を進められると良いと思います。観光から見た添乗業務の意義、専門職としてのステータスを上げていくうえでも重要と思います。

3点目に、TDのモチベーションの向上を図っていくことが望まれます。協会が行っている「添乗員能力資格認定制度」はTDの質的向上に非常に有意義と思っています。業界全体に広げていただきたいですね。

最後に、高品質の旅行商品にはTDは必要不可欠な役割を担っています。業界団体としてTDが意欲的に添乗業務に取り組めるような環境整備をぜひ進めていただきたいと思えます。

三橋 ありがとうございます。私どもも、精一杯努力して参りますので、これからもご支援下さいますようお願い申し上げます。本日は長時間ありがとうございました。



予定の1時間をはるかに超えての楽しい智恵と示唆に富んだお話を多々うかがい、本社ビルのある賑やかな秋葉原後にしました。

「TCSA運営幹事会」新設、 今後の協会事業運営に新風を

協会の事業運営、基本方針の決定は、定款で定められた会議体として通常総会を頂点にして理事会が最高決議機関であり、さらに事業の円滑な運営を図るために理事会の議決を経た各委員会が設置されています。

昨今頻発している添乗に係る緊急課題に協会として迅速に対応していくためには、正会員会社の意を適確に反映し、スピーディーな意思決定と行動が必要であると考えます。実質的に開催回数の限られている総会、理事会のみに決議を委ねていた場合、解決の為に時機を失する恐れがあることから、「運営幹事会」を新設することを9月に開催された理事会で決定いたしました。

運営幹事会は、総会および理事会への諮問機関としての位置づけで、協会、業界および事務局運営事項において日常的に発生する重要事項の審議を行い方向づけを定めるとともに、各委員会に対しても指導、示唆を行っていく協議機関として、理事会に準じた機動性のあるものとなります。

運営幹事会の委員長には会長が兼任し、委員については正会員各社代表者から広く募ることとしました。委員確定後、直ちに定例的開催により活動を開始することといたします。

「ツアーコンダクターになろう!!」(添乗業務基礎研修) - TCSA主催Eラーニングによる講座がスタート -

ツアーコンダクター資格の「旅程管理主任者」取得のためには、旅行会社所属者を除いて、旅程管理研修受講前に添乗基礎業務の受講が義務づけられています。

TCSAでは従来集合教育として基礎研修の公開講座を実施してきましたが、開催地が東京、大阪に限られ、実施回数も限定されていました。この度TCSAでは、全国どこからでも受講できる体制を構築し、TCを目指す人たちに広く門戸を開く為に「Eラーニング講座」の新システムを開発。7月から実施にこぎつけました。

この講座は、受講期間1ヶ月の間ならばパソコン上で自分の好きな時に学習でき、何回でも視聴することが可能です。さらに不明な項目は画面上から直ぐに質問ができるとともに、素早い回答が求められます。添乗業務のロールプレイ動画を盛り込んでいますので、添乗業務のイメージが明確に把握でき、国内と海外の両方の添乗業務の基本的な内容が理解できます。

受講料金は9,800円(教本代、消費税込み)と手軽な料金設定となっています。

詳細については、TCSAホームページ(<http://www.tcsa.or.jp/>)を参照ください。

TCSAでは今後このシステムを活用し、現役TCのためのレベルアップ教養講座として「世界遺産Eラーニング講座」を現在開発中です。



TCSA主催「旅程管理研修」 WEBによる申込受付順調に滑り出し!!

TCSAでは、従来事務局や地域委託先に持参または郵送にて受付けていた一連の申込みから始まる旅程管理研修のWEBによる受付システムを新規開発し、本年6月から開始いたしました。

受付は、会員用、非会員用に分かれていますが、従来より受付期日が早くなるとともに間際まで可能となり、申込みに関する一連の業務も大幅に簡略化されました。

導入に伴うポイントは次の通りです。

研修開始日の2ヶ月前から10日前まで、いつでもお申込みいただけます。

お申込み書類の作成や発送が不要となりました。

(受講者の国内免除お申し込み時の国内修了証明はお申込み後FAXでお送りいただく必要があります)

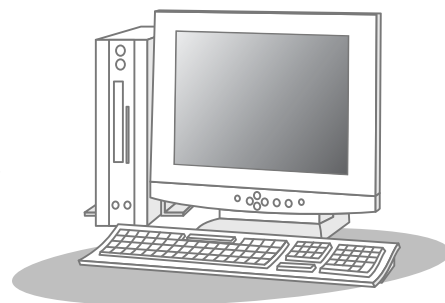
お申込み後すぐに、WEB上で即時に受講票・受講書類の発行が可能です。

受講料はお申込み手続き後にご入金いただけます(会員のみ対応)。

受講者本人からも可能ですので、会社単位でお取りまとめいただく必要がございません。

(ご入金をこちらで確認させていただき教材等をお届けいたします)

さらに、本年下期からは全ての研修日程を催行確定とし、東京地区では毎週開催とするなど安心して申込ができる体制を構築しました。



2000日添乗員の「コッソコッソ」奮闘記

連載 35

トラベルはトラブル?

200名足止め軟禁勃発!! 誠心誠意対応で回避



(株)JTBビジネスサポート九州

坂本 次雄さん

(平成19年度TCSA永年勤続表彰受賞)

20年近く添乗員をやっている色々なトラブルに遭遇する。人命に関わる病気、盗難、テロ等どれも大変な非常事態だが、中でも飛行機に関するトラブルはツアー客全員が被害

を被るなど、対処に添乗員の力量が特に問われる場面かもしれない。

数ある航空トラブルで一番大変だったのが、エジプト航空チャーターの8日間ツアーだった。真夏の暑さで滞在中も病人のお世話に追われ、さらに帰途、ルクソール空港で付添を含めて2名が残ることとなり、手続き等で疲労困憊のまま搭乗した。エジプトから経由地バンコックまで9時間のフライトは寝っぱなし。

バンコック着後トランジットルームで出発時間になっても誘導アナウンスが無い。1時間、2時間…。時間が過ぎるばかりで、機内食積み替えに時間が掛かるとの案内のみ。しかし窓外の搭乗機前輪の周りには多数の人だかり。様子がおかしい。お客様もイライラして騒ぎ出す。結局6時間後、前輪車軸のひびが原因でさらに半日遅れるとの説明があった。上陸禁止扱いで空港近くのホテルに200名が分宿となったが、PP

や荷物は空港預かりで着の身着のままの状況に置かれる始末。

ホテルに到着して部屋割り後、宴会場で事情説明。最初は興奮して怒声をあげていたお客様も添乗員が手分けしてご案内をし、食事をとっている間にやっと大人しく話を聞いていただけるようになった。

荷物も無く着替えもできない状況での丸二日間の軟禁状態は想像以上の修羅場であったが、大きなクレームも無く、病人発生も無かったことは、今から思うと定期的な状況説明会、当座の着の購入、家族への連絡用ホットラインの開設、いつでも食事できる会場の設営など、添乗員一同が誠心誠意お客様に対応したことだと思われる。中でも非常に最も大切なことは、正確な情報をお客様に伝えることであった。

添乗をしていると本音が出せない部分が多々あるが、特にトラブルの場合にはその場逃れの体裁をつくらったり、嘘や隠し事をしないことが大変重要と思われる。

当り前のことであるが、お客様へは常に誠心誠意で接することが現在も一番心がけている自訓である。

大きなトラブルも誠心誠意対処すれば、お客様も最後は理解してくれると信じている。



“ ツアーコンダクター職業フェア2008 ” 成功裡に終了

TCSA だより

恒例となった「TC職業フェア」が本年度も9月19日、お台場ビッグサイトで開催されたJATA世界旅行博会場にて実施されました。今回は会場が手狭であったため、2回開催として旅行博参加の大学、短大、専門学校各校に参加を呼びかけました。2回合計で、15校、99名の参加と盛況でした。

フェアは添乗員厚生委員会委員が中心となり運営され、特に委員会社所属の現役TC2名による添乗中のエピソード、裏話、遭り甲斐などの生の講話が好評で、アンケートにも“TCの仕事に大変興味を持てた”“思っていたより先苦勞がありそうだが、チャレンジしてみたい”などの声が多く見られました。

今後もTCSAでは改善を加えて継続し、少しでも若者にTCの職業としての魅力を伝え、応募者を増加させる場としていきます。

「平成20年度添乗業務レベルアップ研修」概要決定

TCSA・JATA共催で東京・大阪にて実施

両協会共催の海外添乗を中心としたレベルアップ研修の概要が決定しました。研修は3日間ですが、個別の研修の受講も可能です。新しく海外添乗に従事される方はもとより、ベテランの方も復習の意を兼ねて積極的に参加願います。申込は両協会にて受け付けています。

日時	研修内容	予定講師
1日目 (9:30~17:30)	海外添乗業務基本動作の確認	JATA講師
2日目 (9:30~17:30)	海外旅行トラブルの防止と対応	JATA講師
3日目 (10:30~12:00)	TCとして習得すべきストレスケア対策	TCSA講師
” (13:00~17:00)	TCとして知っておくべき旅行医学の基礎知識	日本渡航医学会講師

東京会場(JATA研修室) :平成21年2月16日(月)・17日(火)・18日(水)
大阪会場(天満研修センター):平成21年2月23日(月)・24日(火)・25日(水)

会員動向

正会員

代表者変更(()内は前任者)

(株)ジャッツ関西

代表者 久保 俊紀(松本 邦夫)

住所変更

(株)旅行綜研大阪支店

新住所:〒541-0048 大阪市中央区瓦町4-5-9

井門瓦町ビル4階

新電話:06-6206-1450・新FAX:06-6206-1455

(株)旅行綜研仙台営業所

新住所:〒980-0014 仙台市青葉区本町1-11-2

SK小田急ビル10階

電話・FAX変更なし

賛助会員

住所変更

(財)国際観光サービスセンター

新住所:〒170-0003 東京都文京区駒込1-37-9
エルエスビル3階

新電話:03-6902-5081・新FAX:03-6902-5085

(社)日本観光協会

新住所:〒104-0033 東京都中央区新川1-6-1

アステール茅場町4階

新電話:03-6222-2531・新FAX:03-6222-2539

(((編集後記)))

本年10月に待望の観光庁が発足したが、実に半世紀以上も前の昭和29年発行の文芸春秋誌上に“観光立国の弁”と題し、これからの日本は世界平和を目指して観光立国を確立するために、観光省、観光大臣の必要性を説いた一文に接した。国中が工業立国、農業立国、貿易立国を声高に叫び、邁進している戦後間もないこの時期に、我が国固有の景観の美、自然の美こそが世界に誇る大きな財産であり、国策による外客誘致を図るためのホテル建設やインフラ整備等観光開拓の具体策が述べられている。改めてその先見性に畏敬の念を感じえないが、その人こそ商売の神様「松下幸之助翁」である。(T・S)

社団法人 日本添乗サービス協会

〒105-0011 東京都港区芝公園2-11-17 朝井ビル4階

TEL(03)3432-6032・FAX(03)3431-8698

E-mail tcsa@tcsa.or.jp

URL <http://www.tcsa.or.jp/>